



稅金豪州日記  
豪州終了編

前略 アデレードでFフォークとブランケットの修理を終え、シティから来たヘ40km程行つたキャラバンパークに連泊、チャーンスプロッケを交換、これで調子良くなつたかと思えば今度はエンジンがアイドリングでしか回らない、スロットルを開けるとストップしてしまつ。今日は雨キヤブの分解もやる気にならない。バイクショップは北へ8kmの所まで行かなければならない。8kmは押して行くには遠すぎる。困つているとキャラバンのオーナーがトレーラーに載せてくれたので助かつたああ、あ。その店はホンダショップだつたため(といつてもアデレードのYAMAHA PITMANSだが)セローの受取は翌日の夕方、長く滞在したキヤラバンでは、ここのお住民となつてゐる叔父さんと仲良くなり米を1kg貰つた。また、この叔父さんの友達は千九百九年に世界一周をしているヒゲのじいさんは、じいさんの家へ呼ばれ、夕食を御馳走になる。また1つ思い出の場所が出来て良かった。10月22日カンガルー島へ渡る。この島はオーストラリアで3番目に大きな島、町と町を結ぶ道を除いて、その殆どがダートロード、野性のアザラシがすぐそばで見れるシールベイ、自然の浸食で奇妙な形をした岩リマーケーブルロックス他、見所が一杯、ぼくのお勧めはたぶん日本のガイドブックには出てないだらうのリトルサハラ、真っ白い砂丘が続き、風で出来た模様、海岸のすぐ近くとは思えない光景が目の前で広がる。

カンガルー島でもまたトランブル！右タンクにクラック、ペトロがボトボトと右足を濡らす。ツイてない、その日は土曜日急いで島で一番大きな町へ行くが、殆どの店が午後になり閉店、やむなくキヤラバンにまた連泊、オイルカンを借り、右タンクからペトロを抜く。月曜、町でただ一件の修理屋は

理は僕も手伝つてあつという間に終わり24ドルと安かつた。さて今日はメイランドへ帰る日フェリーは午後6時までない。で手紙を書いてる訳ですとではまた。26.10.93 16:00 ジェームズ

前略 メルボルンからまたフェリーに乗つて  
今タスマニアにいます。  
本土に戻つて2日目にヘーダー・ギアが  
壊れ以降走行距離不明、メルボルンで  
3度目のタンクペトロもれ、このトヨ  
ブルは3度目だとバイク屋に言うと、  
それじゃこれはスペシャリストの所で  
修理した方が良いという事になり、修理  
が終わるまでの間SR250のタン  
ク。このタンクをつけるとまたセロー  
が全くのカスタムバイクに見えてなか  
なか恰好良い、このタンクでビクトリ  
ア州をツーリング。タンク容量が少な  
くなりメーターもなしでまたガス欠  
100km/hで車が走る道端でタンクを  
外しヒッチハイク、30分経つても全く  
止まってくれる車がない。大の字に寝  
つころがつて死んだ振りをしてダメ  
やつとピックアップしてくれたのは、  
キャンベラから旅行中の家族だった。  
ピクトリアは嫌いだ。メルボルン近く  
のキャラバンはテントサイドでも10ドル  
以上するし、ヒッチしても車は誰も相  
手してくれない。北の方の森の中は

寒かった。野宿した所はツインピークスのラストにあつた森の中のようだつた夜何かが寝袋の上に乗つかり体が動かなかつた。

タスマニア行きのフェリーは高かつたれど大きな船でカンガルー島のように揺れないし、レストラン、パブ、ピアノの弾き語りラウンジ、ベッドの4人部屋。快適でホテルに泊まつたと思えば、日本のフェリーより随分安いと思う。

11月になり時計の針が1時間進んでもサマー・タイム。タスマニアでは既に10月からで暦の上ではもう夏だというのにこの島はやたら寒い。西からの風と冷たい雨、手はかじかんで、サイフからお金を出すのもやつと。晴天ならばそれは美しいだらうの山間部の湖畔での事、その日午後から冷たい雨気温10°C。それに長年使用してきたオプチマスがついに火を吹かなくなり、パンとオレンジジュースだけの夕食。夜寒くてみると何と雪が降つていてはいけない。朝は0°C. だつた。一周時には持つていたオーバーアンツも冬用グローブもない長ソデシャツも2枚しかなかつた。もう寒くてたまらん、早く本土へ戻りたいと今日フェリー・ターミナルへ行くがメルボルン行フェリーは、明日6時までない。今日は焚き火が出来て暖かい玉子入りラーメンがえた。寒い時にもストーブがないというのはとてもつらい。明日はフェリーに乗つて頼んでおいたメーターギアのパーツを受取にメルボルンに行き、早々シドニーに帰るのは13日ぐらいだろうか。

それに反して排気音ははじけるようでも元気、燃費もリッター30km以上と良好。これは、このピストンシリンドームヘッドに堆積したカーボンで圧縮比がぐっと高くなつた結果かな。このピストンスカスカ状態にもかかわらずシドニーに真っすぐ行けばいいもの。コシアスコ山へと寄り道。この山はオーストラリアの最高峰、ここに登れば海面下12mのエイア湖から2200mの最高地まで行つた事になる。登り坂のワイディングで道にまたもクラッシュが悪くなつてきた。頂に多くの雪を被す山としても美しい景色、油絵を描く人達、一番いい時期にこの山々を見渡せて最高。展望台までは駐車場からわずか5分、しかしコシアスコ山頂までは約8km、歩いて行けない距離ではないが雪が残っているし、ブーツではちょっとしんどいコシアスコ山はあきらめて（植村直己さんも登つてないからまあいいか）その後は真っすぐシドニーヘルツィングへ帰った。

2回のツーリング、とりあえずオーストラリアの旅は終わり。約月楽しい事より辛い事の方が多か雪の降るタスマニアでガタガタ40℃のクーパーズクリークでクラと目まいがした日。トラブル続セロー、充分な食事がとれずいつ腹で体重も48kgまで落ちた。野宿で汚い僕を家に泊めてくれた親日家族、セローのトラブルで困り果いた所を自分のトレーラーでバイクで運んでくれたキヤラバンのオーラ、夕食に誘ってくれたお爺さんもいなアットバックでガス欠、ソンドまでピックアップしてくれたの人達、多くの人との出会いと別繰り返しに僕の小さな胸ではおさない何かがいつも溢れていた。疲れた僕をエンジン音がよし今走るゾという気を起こしてくれたにはいつもセローがいた。離れる事を嫌い、何時も目の届く所で寝た。

シドニーに来た時から暇な日はもなかつた。税関、検疫、RTAシティを歩き回った。たっぷり時かけて修理してやろう。そしてまたに出よう。たとえ次の旅でエンジ止まつてスクラップ同然になつても僕はそのスクラップを日本へ返す。

カルネや関税の問題などもう今たちは関係ない、まだまだ旅はらない。

これにてオーストラリアツーリングポートおしまい。

ジエームス

P.S ツーリング中、組長から小届いていました。ミラー やステー誠に感謝の言葉もありません。色々と組員の皆さんから送つても勝手にフィルムや8ミリテープまつつけ申し訳有りません。2回目には住所録を忘れていたため、ジオエッグへ手紙を送らせて頂きた。今後はまた庄司さんの方へとてますがヨロシイでしょうか?

今後の組の活動がどう変わつか楽しみです。写真やこの汚い手寺崎組のために役立てば幸いです。